



●日本色彩学会の持続可能な未来を

日本色彩学会の皆さまとオンラインで、「持続可能で未来志向の日本色彩学会を一緒に作りませんか」という学会運営についての意見交換の会が開催されます。参加費は無料です。

会員は誰でも参加 OK！役員など未経験の方のご参加が特に歓迎されています。

「こんな日本色彩学会や研究会なら楽しく続けられるのでは。」「会員のメリットは何？」「新しいメンバーが増えてほしい。」

「こんなイベント企画をしたい。」

「共同研究や情報提供したい。」

などという、希望や疑問を解決する

【持続可能な未来ワーキンググループ】の第一回オンライン懇談会が開催されます。

◆開催日時：2023年9月12日（火）

16：00 から 1 時間程度

◆モデレーターは、日高杏子氏（理事・主査・芝浦工大）が担当されます。

◆アドバイザーは、土居 元紀氏（理事・大阪電気通信大）が担当されます。

◆事前登録申込は、「学会メールニュース No.433」の「事前登録」をクリックしてお申込ください。

申込後、ミーティング参加情報が届きます。

（学会メールニュース No.433 から引用）

●美術や図画工作教育による実例調査

現在、義務教育においては色弱者への配慮が拡がりつつあります。

養護教諭の調査は過去に実施されていますが、美術教育をはじめとする教育現場において、どのように取り扱うかどうかは、あくまで教員個人の裁量に任されています。

教育現場でどこまで理解が広がっているか、授業でどのような配慮がなされているかなどについて、下記要領で小学校の教員または、中学校の美術教員を対象にアンケートを実施しております。お近くに該当者がいらっしゃる方は、回答協力を依頼してください。日本色彩学会会員でなくても構いません。

お忙しいところ恐縮いたしますが、ぜひともご協力お願い申し上げます。

1. 目的：（公）日本教育弘済会令和5年度研究助成による調査の実施
2. 方法：アンケートによる回答（設問数 10 問）
3. 締切：令和5年9月30日
4. 回答方法：右 QR コードか、
5. 問合わせ先 昆野照美 Email：

konno.terumi.d4@elms.hokudai.ac.jp

（色彩教材研究会幹事 昆野照美）

●大辞泉ひろいよみ 32 一え

絵巻：経典の絵解き、社寺の縁起、高僧の伝記、説話や作り物語などを絵に描き、変化する画面を鑑賞する巻物。ふつう、画面を説明する詞書を絵と交互に書き添える。奈良時代に始まり、平安、鎌倉期に盛行、室町期には衰えた。絵巻物。

エメラルド：緑柱石の一種。濃緑色で透明な物。宝石にする。緑玉、翠玉。

エメラルドグリーン：エメラルドのような鮮やかな緑色。緑色の顔料。花緑青。

絵物語：物語の主要場面を絵に描いたもの。また、絵入りの物語。

絵様：えよう。物を作ったりする場合の見本としてかかれた絵や模様。また、下書きの絵。絵図面、下絵。図案。模様。鎌倉時代以後の建築で、梁などに施された模様や彫刻。

襟白粉：えりおしろい。襟首から肩にかけてつける濃いおしろい。江戸中期から、上方風の厚化粧をまねて流行した。牡丹刷毛を使って塗る。

鉛華：えんか。白粉のこと。昔、鉛を原料にした。鉛白、鉛粉。

鉛灰色：えんかいしょく。鉛の色のような灰色。なまり色。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

（永田泰弘）